

2 2年次における各教科の研究

(1) 国語

ア 研究主題

「論理的な思考力・表現力を育成するための系統的な指導の在り方」

イ 研究主題設定の理由

文化審議会答申（平成16年2月）には、「今後の国際化社会の中では、論理的思考力（考える力）が重要であり、自分の考えや意見を論理的に述べて問題を解決していく力が求められる」とあり、「国語は、各人の論理的思考力の基盤」とある。教科の学習指導の中で、国語の果たす役割は大きい。

学習指導要領の国語科改訂の趣旨に、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力」を育むことを重視するとある。しかし、「全国学力・学習状況調査」（平成24年4月文部科学省）の結果からは、正確に読み取ることや具体的に書くことに課題が見られた。また、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（平成24年7月東京都教育委員会）では、文章の構成や展開について、根拠を明確にして捉えることに課題が見られた。

論理的な思考力と表現力とを一体的に育成するとともに、児童・生徒の発達の段階に応じて系統的に指導することが重要である。本研究では、思考の結果だけではなく、その過程を含めて言語により表現する学習活動に着目するとともに、学習の系統性を重視し、発達の段階ごとに身に付けるべき能力を明確にすることを意図して、研究主題を設定した。

ウ 研究内容

(7) 身に付けさせたい力

学習指導要領では、国語科の目標にある「思考力」を「言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力」とし、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（小学校・中学校 平成23年11月、高等学校 平成24年7月 国立教育政策研究所）では、「表現」を「思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているか」としている。また、文化審議会答申（平成16年2月）では、「論理的」について、「根拠や理由を明確にして」話すこと及び「客観的な根拠や理由に基づいて」書くこととしている。

以上のことから、本研究において、身に付けさせたい力を「的確に根拠を示して思考の過程や結果を表現する力」とした。

(1) 研究仮説

国語科の指導において、思考の過程や結果を的確に根拠を示して表現する学習活動を系統的に行うことにより、論理的な思考力・表現力を育むことができるであろう。

エ 1年次の研究

「根拠」を基にした理解と表現について実態を明らかにするための調査から、文章や話の主張の根拠を取り出す力や、根拠を明確にして自分の意見や考えを表現する力が、児童・生徒は身に付いていないと考えていることなどが分かった。

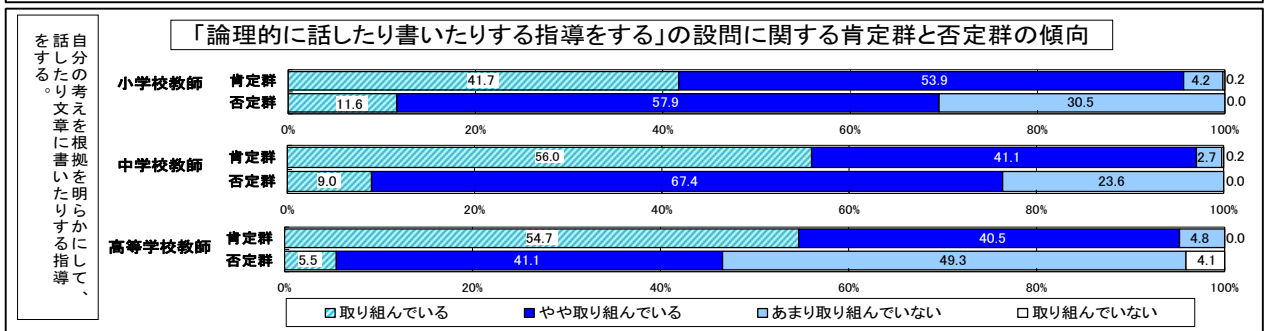
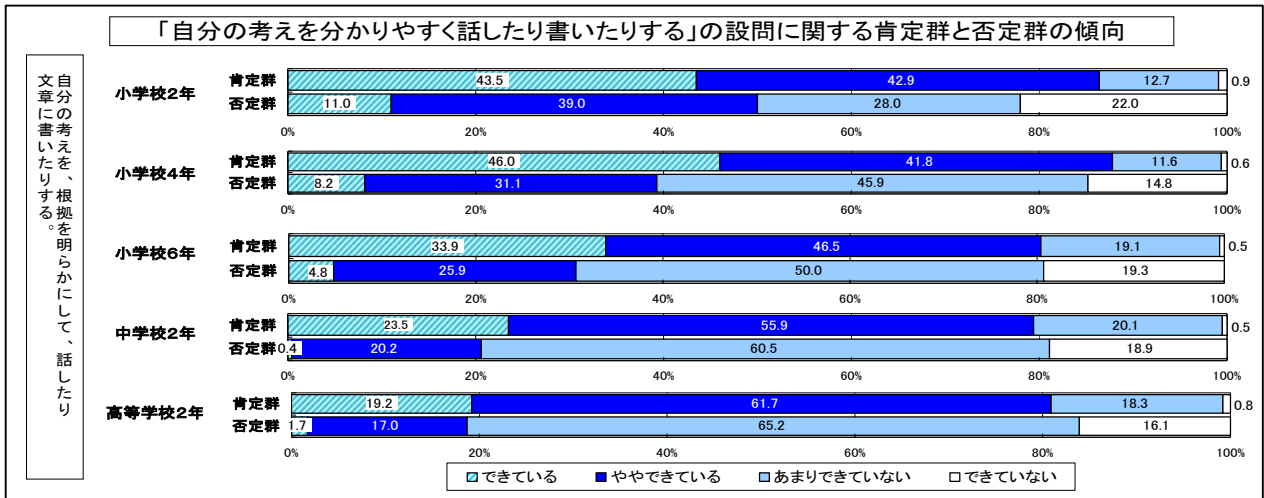
オ 2年次の研究

1年次の調査結果から、「根拠」をもって理解・表現する具体的な指導内容・方法の開発と「根拠」を基に表現をするために必要な能力の系統表の開発を行った。

カ 1年次の調査結果及び分析・考察

1年次の調査結果から、主題に迫るために必要な手だてと関連性の高いものを以下に記す。

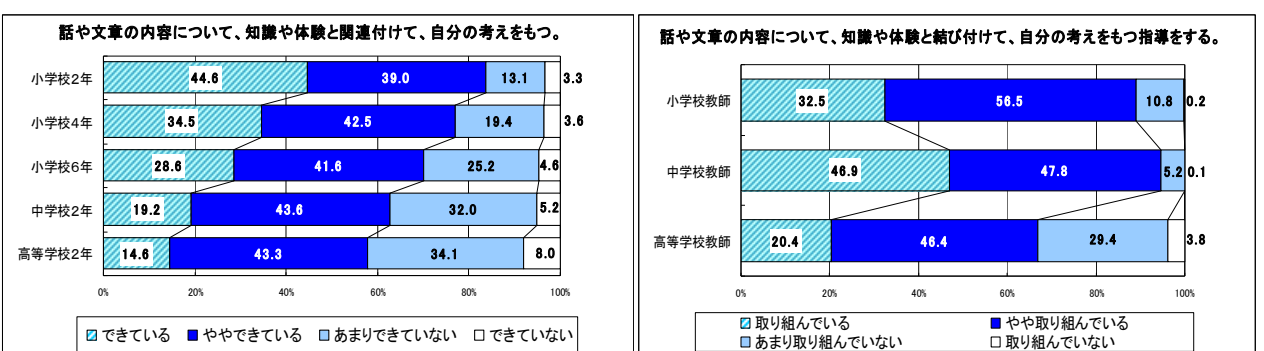
A 論理的な思考力・表現力と「根拠」



分析 「自分の考えを分かりやすく表現する」ことに対して肯定的な回答をした肯定群である児童・生徒は、「自分の考えを、根拠を明らかにして表現する」ことに対しても約80%が肯定的な回答をしており、否定群との差が大きい。また、否定群では、学年が上がるにしたがって肯定的な回答の割合が減少している。

同様に、「論理的に話したり書いたりする指導をすること」について肯定的な回答をした教師は、「自分の考えを根拠を明らかにして表現する」指導について、どの校種においても95%以上が肯定的な回答をしており、否定群との差は大きい。

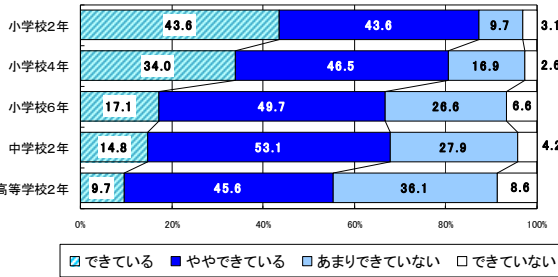
B 「根拠」となる知識・体験



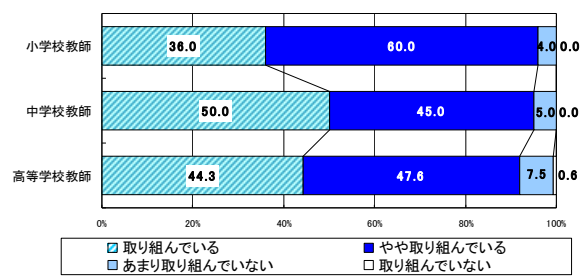
分析 「話や文章の内容について、知識や体験を関連付けて、自分の考えをもつ」との設問に、児童・生徒の肯定的な回答は学年が上がるにしたがって減少している。また、その指導に対する教師の肯定的な回答は、中学校でやや増加するものの、高等学校では減少している。

C ねらいの明確化

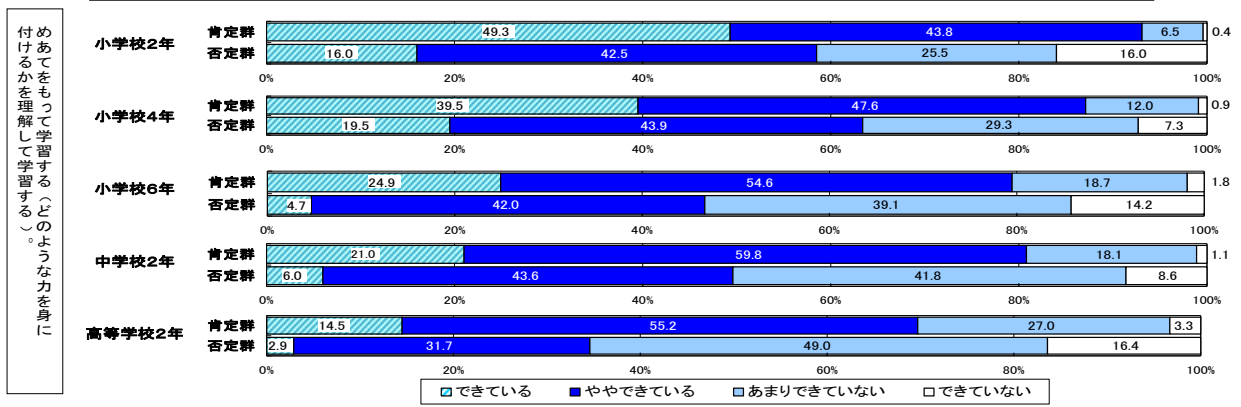
どのような力を身に付けるための授業のかを理解して学習する。



毎時間、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にして、指導をする。



「国語の学習が好きである」の設問に関する肯定群と否定群の傾向



分析

「授業で身に付ける力を理解して学習する」の設問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小学校2年では87.2%であるが、学年が上がるにしたがって減少している。特に高等学校においては、その割合が60%以下となっている。一方、「児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にして指導をしている」の設問に肯定的な回答をした教師の割合は、各校種とも90%を超えるが、「取り組んでいる」の回答はいずれも50%以下である。また、「国語の学習が好きである」の設問に肯定的な回答をした児童・生徒の方が、めあてをもって学習していることが分かった。

調査結果からの考察

- A～Cの調査結果の分析から、以下の課題が考えられる。
- 論理的な思考を育てるためには、根拠を明らかにして理解・表現させる系統立てた指導が重要である。
- 理解や表現の思考の過程で、知識や体験を関連付ける指導の工夫が必要である。
- 教師が指導事項を明確にして指導するだけでなく、児童・生徒自身にも、身に付けるべき力を明確に意識させるような授業改善が必要である。

キ 国語科における研究主題に迫るための手だて

調査の分析・考察から、次のような学習活動を取り入れていくことが大切であると考え、手だてを設定した。

- 国語科で身に付けさせたい力の明確化・具体化を図ること
- 身に付けさせたい力を育成するための学習過程を構築すること
- 身に付けさせたい力を小・中・高の発達の段階に応じて系統的に設定すること
- 相手、目的や意図、多様な場面や状況などを明確にした具体的な言語活動を位置付けること

＜国語科における研究主題に迫るための手だて＞

	手だて	内容
国語科で設定した手だて	I 発達の段階に応じ、根拠を的確に示して思考の過程や結果を表現する能力を育成するための指導の工夫	○「論理的な思考力・表現力」を育成するための基礎的・汎用的な能力を身に付けさせる学習過程を、系統表を基に単元計画の中で示し、毎時間のねらいを明確にするとともに、児童・生徒にも毎時間ねらいを示す。
	II 具体的な指導内容・方法等の提示	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域の指導において、「根拠」となる「思考の過程」を表現する学習を、児童・生徒の実態や習熟状況に応じて系統表を基に補充的・発展的に行う。
各教科共通の手だて	① 小・中・高の系統的な指導	○思考・判断の結果を的確に根拠を示して表現するために身に付けるべき能力を、小・中・高の発達の段階に応じて系統的に設定する。
	② 興味・関心の喚起	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の言語活動の中で、相手、目的や意図、多様な場面や状況などを具体的に設定することで、題材・教材と児童・生徒との内面を近づけ、意欲的に取り組める学習活動を工夫する。
	③ 言語活動の充実	○相手、目的や意図、多様な場面や状況などを明確にした具体的な言語活動を位置付けるとともに、系統表を基に育成すべき国語の能力の明確化・具体化を図り、育成すべき能力を身に付けるための学習過程を構築する。
	④ 実生活とのつながりの明確化	○相手や目的、意図を明確にしたり、日常生活や社会生活から話題を設定したりすることで、学校・家庭・社会など実生活で活用できる言語能力や自己表現の充実に図る。
	⑤ 学習習慣の確立（主体的な学びの促進）	○言葉を手掛かりに文章を読み進める学習や、多様な文章を読んだ的確に根拠を示して思考の過程や結果を表現する力を育成する学習により、他教科の学習を含め、自ら様々な資料を活用して学習する力を高める。
	⑥ 評価の工夫	○単元や毎時間の学習のねらいを明確に示すとともに、作品等による結果の評価だけでなく、思考の過程をワークシート等で表現させたものによって評価する。

ク 系統表の内容及び活用について

(7) 系統表の内容

「中学校学習指導要領解説国語編」（平成20年7月）の中で、「『適切に表現』する能力と『正確に理解する能力』とは、連続的かつ同時に機能するものである」とある。また、「読解力向上プログラム」（平成17年 文部科学省）には「読解に当たっては、単に読んで理解するだけでなく、テキストを利用して自分の考えを書くことが求められる。テキストの内容を要約・紹介したり、再構成したり、自分の知識や経験と関連付け意味づけたり」とある。このことから、本研究においては、手だてにある「思考の過程」を表現することを、「理解したことの表現」と「自分の考えの表現」の二つに焦点化している。

さらに、「論理的な思考力・表現力」を身に付けるための学習過程ごとに、身に付けるべき基礎的・汎用的な能力を「表現する目的や内容を理解し、方法を選択する力」、「表現の根拠となる情報を的確に読み取ったり聞き取ったりする力」、「知識や体験を適切に活用したり蓄積したりする力」、「思考・判断の過程や結果を的確に表現する力」とした。

（系統表は、40・41ページに掲載）

(4) 系統表の活用

系統表の横軸では、発達の段階に応じて身に付けさせたい力を示し、児童・生徒の実態や習熟の状況に応じ、補充的・発展的な指導を展開することに活用できる。

縦軸では、「論理的な思考力・表現力」を育成するための一連の学習過程を表している。前項の基礎的・汎用的な能力を基に、この一連の学習過程を「①表現する目的や内容を理解し、方法を選択する学習」、「②表現の根拠となる情報を的確に読み取ったり聞き取ったりする学習」、「③知識や体験を適切に活用したり蓄積したりする学習」、「④思考・判断の過程や結果を的確に表現する学習」とした。これにより単元や毎時間のねらいを明確に、具体的に単元計画や学習過程を構築することができる。

「思考の過程や結果を的確に根拠を示して表現するための基礎的・汎用的な能力」について

一連の学習過程	身に付けさせたい力		具体的な内容	
	① 内容表現方法 を目的判断や する力	思考の過程や結果を的確に根拠を示して表現する際に、何のために思考して表現するのかという目的や何について思考して表現するかという内容、どのような手だてや手順を用いて思考して表現するかという方法などを課題や条件に応じて判断する力である。	ア 目的及び内容の判断	表現する目的は、伝達、説得、記録など他者や将来の自分に伝えたり、メモなど自分の思考を可視化したりするものであり、同じく内容は、大きくは事実と感想・意見などであるが、具体的には極めて多岐に渡っており、ここでは示された目的や内容の理解から相手や場面などを踏まえた判断等までを系統的に例示している。
② きを取つた表現の根拠と なる情報	思考の過程や結果を的確に表現するためには、その場での活用や将来の活用に備えて、根拠となる情報を的確に読み取ったり聞き取ったりすることが重要である。 その際に必要となる、言葉の意味・用法やきまり等を理解して使う力、目的や課題に応じて情報を収集・整理したり分析・集約したりする力である。	イ 方法の判断	表現する方法は、目的や内容、場面や意図に応じた表現だけではなく、課題や条件に応じた思考や表現の手だてや手順の判断等も系統的に例示している。	
		ア 言葉の意味・用法や決まり等の的確な理解と活用	語句の意味・用法や漢字、言葉遣いや表現の技法、文の成分や構成などを的確に理解し、適切に活用する力を系統的に例示している。	
		イ 情報の的確な収集・整理	表現する目的や課題に応じて、様々な方法で必要な情報を収集し、真偽や適否などを判断して取捨選択したり、その後の活用を考えて整理したりする力を系統的に例示している。	
③ 蓄積した知識や体験 する力	聞き取ったり読み取ったりする際や自分の考えを表現する際に、これまでに得た知識や経験を根拠として想起したり、将来の活用のために、新たに知識や経験を蓄積したりする力である。	ウ 情報の的確な分析・集約	時間や事柄の順序、事実と感想や意見、中心的な部分と付加的な部分などに着目して情報を分析したり、表現する目的や課題に応じて重要な部分をまとめたりする力を系統的に例示している。	
		ア 知識や経験の適切な想起と活用	目的や課題に関連する知識や体験を想起し、適切に選択して、新たな情報と比較するなどして活用する力を系統的に例示している。	
④ 的確な思考の過程や結果を	思考・判断の過程や結果を的確に表現するため、根拠を的確に選択して提示するとともに、論理の構成や表現の仕方を工夫して表現する力や、自分の話や文章について根拠に着目して振り返ったり推敲したりして改善する力である。	イ 新たな知識や経験の蓄積	本や文章の叙述や見聞したことなどから、新たなものの見方や感じ方、考え方、表現や語彙などを進んで取り入れようとしたり、知識や体験を蓄積する方法を身に付けて活用したりする力を系統的に例示している。	
		ア 的確な根拠の選択と提示	根拠の重要性を理解し、目的や課題に応じて適切な根拠を選択して提示できる力を系統的に例示している。	
		イ 論理の構成や表現の工夫	伝えたい事柄とその根拠との組合せ方、演繹や帰納などの論理構成の種類や効果などに着目して、論理の構成や展開を工夫したり、効果的な表現の仕方を理解して適切に活用したりする力を系統的に例示している。	
		ウ 話の振り返りや文章の推敲	自分の話や文章について、根拠の的確性や論理の構成などに着目して振り返ったり推敲したりして改善する力を系統的に例示している。	

ケ 検証授業

研究主題に迫るための手だての有効性を検証するために、国語部会では、以下の検証授業を行った。これらの検証授業の結果及び手だての有効性について、分析・考察をまとめる。

＜検証授業＞

校種	学年	単元名	指導の重点化
小学校	第2学年	言葉に注目して読もう	読むこと
小学校	第4学年	感謝の気持ちを伝える手紙を書こう	書くこと
小学校	第4学年	季節のよさを伝える新聞を書こう	書くこと
小学校	第6学年	友達に読んでもらいたい本を紹介しよう（書評合戦）	話すこと・聞くこと
中学校	第1学年	根拠について考えよう	書くこと、読むこと
中学校	第1学年	友達の魅力を紹介しよう	話すこと・聞くこと
中学校	第1学年	表現に注目して朗読をしよう	読むこと
中学校	第3学年	いにしへの心と語らう	読むこと
高等学校	第1学年	国語総合 聞くことを通して得た情報を整理、活用する	話すこと・聞くこと
高等学校	第2学年	現代文（旧課程）叙述を基に人物像について話し合おう	読むこと

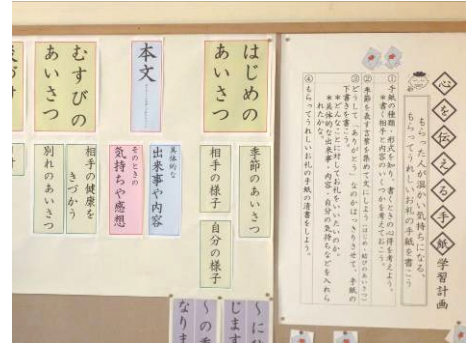
コ 分析・考察

設定した手だての有効性について、「発達の段階に応じ、根拠を的確に示して思考の過程や結果を表現する能力を育成するための指導の工夫」、「具体的な指導内容・方法等の提示」、「小・中・高の系統的な指導」、「興味・関心の喚起」、「言語活動の充実」、「実生活とのつながりの明確化」を中心として記述する。

手だて：「発達の段階に応じ、根拠を的確に示して思考の過程や結果を表現する能力を育成するための指導の工夫」

◇ 学習のねらいの明確化・具体化

系統表によって身に付けるべき力を発達の段階に応じて具体的に示すことで、毎時間の学習のねらいを明確にすることができた。授業者が毎時間の具体的なねらいを明確にもつことは、学習活動の目的が明確となり、適切な評価にもつながる。また、児童・生徒に学習活動のねらいや見通しをもたせることもできる。本研究では、授業の導入で児童・生徒に毎時間のねらいを示すことに加え、単元の指導計画を黒板やワークシート、ICT機器によって示すようにした。さらに毎時間の最後には、示したねらいを基に、振り返りや自己評価などを行った。



単元計画を拡大して掲示した例



ICT機器を活用して単元計画や本時の目標を示す

授業では、単元計画や学習のねらいを拡大掲示により毎時間、児童・生徒に示した。この取組により、授業前と授業後に行った児童・生徒の意識調査で、中学校第1学年の事例「根拠について考えよう」では、「どのような力を身に付けるための授業なのかを理解して学習する」に「当てはまる」、「やや当てはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合が、82.3%から85.7%に増加した。また、小学校第6学年の事例「書評合戦」では、「授業の終わりに、自分が身に付けた力を確認する」に肯定的な回答をした児童の割合は、56.6%から70.9%に増加した。

◇ 一連の学習過程に基づいた単元計画の設定

国語科においては、「ここで音読する」、「ここで話し合う」といったばらばらの言語活動ではなく、児童・生徒が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付けることが必要である。本研究では、「論理的な思考力・表現力」を育成する学習過程を、次の四つの段階で設定した。

- ① 表現する目的や内容を理解し、方法を選択する学習
- ② 表現の根拠となる情報を的確に読み取ったり聞き取ったりする学習
- ③ 知識や経験を適切に活用したり蓄積したりする学習
- ④ 思考の過程や結果を的確に表現する学習

中学校第1学年の事例「友達の魅力を紹介しよう」では、①の学習で「クラスの人に（相手）、スピーチによって（方法）友達の魅力を紹介する（目的）」という単元の学習活動を理解し、そのために②の学習で、友達の魅力（情報）を収集するためのインタビューを行った。そして③の学習で、収集した魅力（情報）の整理をし、④の学習で、収集した魅力

（情報）と自分の意見を区別して構成を考え、スピーチを行った。

また、高等学校の国語総合の事例「聞き取った情報を整理して活用しよう」では、理解と表現のための言語活動を設定した。第1時の「理解したことの表現」では、①の学習で本時の学習活動である「映像教材の聞き取りを基に内容を要約すること」を理解し、②の学習で、映像教材から話し手の主張や根拠の聞き取りを行った。③の学習で、聞き取った内容の整理を行い、④の学習で、話し手の主張の要約をすることで理解について表現した。第2時の「自分の考えの表現」では、①の学習で本時の学習活動である「要約を基に自分の考えを発表すること」を理解し、②の学習で、話の主張や事例の整理、③の学習で、聞き取った内容と知識や経験の比較を行い、④の学習で、聞き取った内容に対する自分の考えの発表をした。

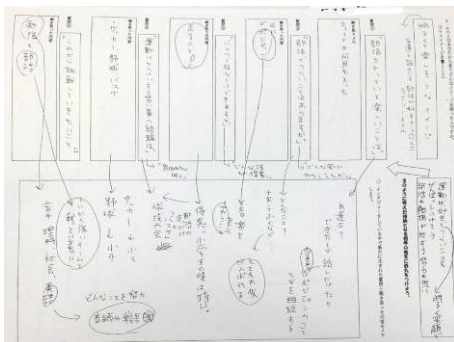


話し手の主張や根拠を聞き取る様子

系統表を基に、育成すべき能力を身に付けるための一連の学習過程を構築することで、単元を貫く言語活動を位置付けられるとともに、各学習段階において、基礎的・汎用的な能力を児童・生徒に着実に身に付けさせることができた。

手だて：「具体的な指導内容・方法等の提示」

◇ 補充的・発展的な学習



必要に応じて質問しメモを取る

論理的な思考力・表現力を育成するための四つの基礎的・汎用的な能力を、発達の段階に応じて具体的に示すことによって、児童・生徒の実態や習熟の状況に応じた補充的・発展的な指導を提示した。

中学校第1学年の事例「根拠について考えよう」では、「中学生に携帯電話は必要か」というテーマで作文を行った。客観性ある事実を考えの根拠としてもっている生徒には、自身の体験や見聞ではなく、携帯電話に関する調査結果や関連する報道などを根拠に文章を書くように指導した。

また、中学校第1学年の事例「友達の魅力を伝えよう」では、魅力（情報）の収集をインタビューによって行い、スピーチをするのに必要な情報をメモに取るようにした。しかし、何が必要かを判断できない生徒に対しては、話す内容をできる限りメモをするように指示をした。

身に付けるべき力を発達の段階に応じて具体的に示すことで、児童・生徒の実態や習熟の状況に応じ、系統表を基に補充的・発展的な指導を行うことができた。

◇ 充実した交流にするための工夫

国語の学習過程の中で、自分の考えを広げたり深めたりするための交流は大切なものである。交流の前には、自分の考えを書かせるなどの準備が必要だが、そ



根拠を指し示し、説明する様子

れでも一方的な意見の発表になってしまうことがある。交流を充実させるために、自分の書いたワークシートを相手に見せ、根拠を指し示しながら意見を話すようにした。

この取組により、生徒は書いた言葉を読み上げるのではなく、「この言葉は命令形で、しかも反復法が用いられているから強く表現したいのだと思う」と自分の言葉で相手に伝えることができた。聞く側も、指し示す根拠に注目しながら集中して聞く様子が見られた。

手だて：「小・中・高の系統的な指導」の実施

◇ 根拠の系統性～理由から根拠へ



朗読の工夫を、根拠となる表現を指し示しながら説明をする様子

小学校低学年は「自分の経験」、中学年は「事例や理由」、高学年は「事実や引用」を用いて表現を行った。また中学校では「根拠」を明確に示すようにし、高等学校では、妥当性の高い「根拠」や「論拠」を用いて表現することで、系統性を意識した。「自分の経験」については、発達の段階が進むにつれて充実するが、直接の経験には限りがあるので、読書経験などの活用が大切である。

中学校第1学年の事例「表現に注目して朗読をしよう」では、詩の心情が描かれた表現や比喻や擬態語など表現技法を用いている表現から、作者の思いを捉え、それを根拠に朗読の工夫を考えた。また、「どうしてそのような読み取ったのか」、「どうしてそのような考えや工夫をするに至ったのか」などを、文章中の表現を取り上げながら話し合うことで、自分の考えを深めさせた。授業前と授業後に行った生徒の意識調査では、「自分の考えを根拠を明らかにして、話したり書いたりする」に肯定的な回答をした生徒の割合が、33.3%から70.6%に増加した。

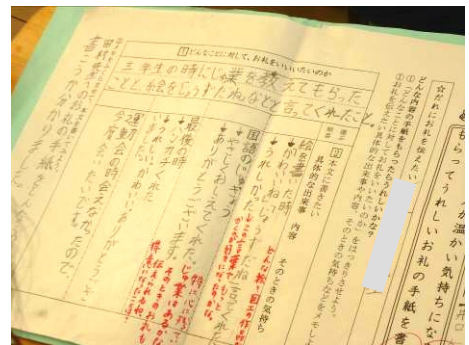
発達の段階に応じて児童・生徒が扱う理由や根拠を具体的に示すことで、授業のねらいが明確になり、児童・生徒への指導も的確に行うことができた。また、系統性を示すことで、児童・生徒の実態や習熟の状況に応じた補充的・発展的な指導にもつながった。

手だて：「興味・関心の喚起」・「言語活動の充実」・「実生活とのつながりの明確化」

◇ 具体的な言語活動の設定

言語能力は、「相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力として育成すること」が大切である。

そのため、「相手」、「目的や意図」、「多様な場面や状況」などの具体的な設定が言語活動で必要になる。また、「相手」、「目的や意図」、「多様な場面や状況」などを具体的に設定し、一連の学習過程に基づいて「目的のために取材をする」、「目的のために表現をする」のように目的に即して言語活動を設定することで、単元を貫く言語活動を位置付けることにもなる。扱う題材についても、小学校では「身近なことや経験・関心のあること」、中学校では「日常生活」と「社会生活」、



手紙を書くための構成メモ

高等学校では「政治、経済上の出来事」や「科学、文化、芸術、スポーツについての知識や話題」などになる。

小学校第4学年の事例「感謝の気持ちを伝える手紙を書こう」では、目的を感謝の気持ちを伝えることとし、手紙の相手を身近な教師や上級生など児童の経験から設定した。実生活の中から具体的な言語活動を設定することにより、児童は「『絵がじょうずだね』とほめてくれてうれしかったです」、「代表委員会のとき、いつもやさしく声をかけてくれてありがとう」など具体的な出来事を挙げて、感謝の気持ちを表現することができた。また、題材と児童との内面が近付き、意欲的に取り組む様子が見られた。事前と事後の意識調査では、「相手や目的、場に応じて表現を工夫し、話したり文章を書いたりする」に肯定的な回答をした割合が、85.7%から96.4%に増加し、「国語の学習が好きである」に肯定的な回答をした割合が、67.9%から82.1%に増加した。

小学校第6学年の事例「友達に読んでもらいたい本を紹介しよう～書評合戦～」では、クラスの児童（相手）に、薦める本を紹介することを目的に行った。実生活の読書習慣と関連付けて目的を明確にすることで、児童は意欲的に自分の薦める本を紹介していた。また、聞いている児童も一番おもしろそうな本を選ぶために、紹介者に「登場人物では誰が一番好きですか」、「その本を読んで役立ったことは何ですか」など積極的に質問をし、興味をもって聞く様子が見られた。授業前と授業後の意識調査では、「国語の学習が好きである」に肯定的な回答をした割合が、70.0%から74.2%に増加し、「自分の考えを、自信をもって表現する」に肯定的な回答をした割合が、60.0%から71.0%に増加した。



薦める本を紹介する様子

その他の研究主題に迫るための手だてについて

- 「主体的な学びの促進」については、理由や根拠を明確にして表現する学習を行ったことにより、他教科の学習においても理由や根拠を明確にして表現することにつながった。
- 「評価の工夫」については、ワークシートに根拠となる考えを書き込ませたり、構成メモを作ったりすることで「思考の過程」を評価することができた。

サ 成果と授業改善の提案

成果

- 発達の段階に応じて、根拠を明らかにして表現する学習を行うことにより、児童・生徒は、自分の考えを分かりやすく話したり、書いたりすることができるようになった。
- 系統表の一連の学習過程に基づいて、単元の指導計画を設定することにより、「知識や体験を適切に活用したり蓄積したりする段階」において、知識や経験と関連付けて思考の過程を表現することができた。
- 系統表を基に毎時間の学習のねらいを明確にし、単元計画を基に学習の流れを児童・生徒に示すことで、児童・生徒に、授業の中で身に付けるべき力を意識させることができた。

授業改善の提案

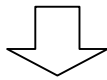
本研究では、系統表の一連の学習過程に基づいて、単元の指導計画を設定することにより、授業のねらいを明確にすることで、「論理的な思考力・表現力」に必要な基礎的・汎用的能力を総合的に身に付けさせることができた。このような取組を継続して行うことで、児童・生徒に「論理的思考力の基盤」となる国語の力を身に付けさせることができると考える。

- ◆ 系統表を基に、単元や毎時間のねらい、児童・生徒が身に付けるべき力を設定する。
- ◆ 「相手」、「目的や意図」、「多様な場面や状況」などの具体的な言語活動を設定する。
- ◆ 系統表の一連の学習過程に基づいて、単元の指導計画を設定することにより単元を貫く言語活動を位置付ける。

□ 単元における学習過程の流れ

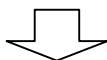
1 表現する目的や内容を理解し、方法を選択する学習

- 目的及び内容の判断
- 方法の判断



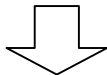
2 表現の根拠となる情報を的確に読み取ったり聞き取ったりする学習

- 言葉の意味・用法や決まり等の的確な理解と活用
- 情報の的確な収集・整理
- 情報の的確な分析・集約



3 知識や経験を適切に活用したり、蓄積したりする学習

- 知識や経験の適切な想起と活用
- 新たな知識や経験の蓄積



4 思考の過程や結果を的確に表現する学習

- 的確な根拠の選択と提示
- 論理の構成や表現の工夫
- 話の振り返りや文章の推敲

理解したことの表現

- 目的（や意図）の理解
(例)
・ 自分の生き方を考えるために読む。
・ 批評するために読む。
- 読み方の判断
(例)
・ 本や文章を読み比べる。
・ 登場人物の言動や情景についての描写から読む。

- 言葉の特徴や決まりの理解
(例)
・ 比喻や反復法などの表現技法を理解する。
- 情報の収集・整理
(例)
・ 学校図書館で得た情報を比較する。
- 情報の分析・集約
(例)
・ 登場人物の人間関係を把握する。

- 知識や経験の想起
(例)
・ 自分の経験を基に、登場人物の気持ちや情景を想像する。
- 知識や経験の蓄積
(例)
・ 関心のあることについての本を読み、必要とすることの要点をまとめる。

- 的確な根拠の提示
(例)
・ 文を引用して自分の感想を伝える。
- 論理の構成や表現の工夫の工夫
(例)
・ 異なる構成や展開の仕方を比べて評価する。

自分の考えの表現

- 目的（や意図）の理解
(例)
・ 学校生活について、新入生に紹介する。
・ 夏休みの生活を俳句にする。
- 表現の仕方の判断
(例)
・ 事実と感想、意見を区別する。
・ 情景と心情とに分けて表現する。

- 言葉の特徴や決まりの理解
(例)
・ 相手に伝わる言葉を考える。
- 情報の収集・整理
(例)
・ 自分の話す内容についての情報をインタビューによって収集する。
- 情報の分析・集約
(例)
・ 整理した情報について分析し、分類する。

- 知識や経験の想起
(例)
・ 収集した情報を関係付けて表現する。
- 知識や経験の蓄積
(例)
・ 様々な経験から話すことについての自分の考えをもつ。
・ 想像したことから物語を書く。

- 的確な根拠の提示
(例)
・ 資料を適切に引用して根拠にする。
- 論理の構成や表現の工夫の工夫
(例)
・ 論理の構成を工夫して、説得力のある話にする。

- ◆ 単元や毎時間の授業に設定したねらいを基に学習の振り返りや自己評価を行い、児童・生徒に授業で身に付いた力を確認する。

国語1 小学校「友達に読んでもらいたい本を紹介しよう」 第6学年

【本単元の概要】

理由を明らかにしながら話せるようになることを学習の目的に設定し、友達にお薦めの本を紹介する。本を読み、内容を理解し、自分の考えや経験に照らし合わせ考えを再構築することは、子供たちの思考力・判断力等の育成につながる。

【系統表との主な関連】

項目3「知識や体験を適切に活用したり蓄積したりする力」を身に付けることを主として学習を展開している。身に付けた力を基に、的確に根拠を示して話す活動を取り入れている。

1 単元の目標

- (1) 本の魅力を紹介する活動を通して、読んだことのある本の中から一番推薦したいものを選び、理由やエピソードなどの事例を挙げて発表しようとするができる。
- (2) 推薦したい本を選び、理由やエピソードなど必要な事柄を挙げて話したり、話し手の意図を捉えながら大事なことを落とさずに紹介を聞いたりし、感想を述べたり質問したりすることができる。
- (3) 話す内容にもいろいろな構成があることについて理解したり、比喩や反復などの表現の工夫に気付いたりすることができる。

2 単元の評価規準

ア 国語科への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①本を紹介し合うことに興味をもち、紹介したい本を見付けようとしている。 ②聞き手を引き付けるために、内容や表現の仕方などを工夫して紹介しようとしている。 ③発表者が伝えたい本の魅力を理解し、さらに詳しく知りたいことを考えながら聞こうとしている。 ④本を紹介し合うよさを感じ、読書に対する関心が高まっている。	①学校図書館の本の中から、他の人に一番薦めたいものを選んでる。 ②本の魅力を伝えるために注目すべき点を考え、伝えたいことが聞き手に伝わるように自分の知識や経験などを書き出したりまとめたりしている。 ③推薦する理由、自分の知識や経験などについて触れながら、自分が推薦したい本の内容やよさについて話している。 ④発表を聞いてそれぞれの本の魅力を理解し、質問したり感想を述べたりして一番読みたいと思った本を選んでる。	①本を推薦するのに、聞き手を引き付けるための表現や構成を工夫して話している。 ②聞き手を引き付けるために比喩や反復などの表現を工夫して話している。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内容
国語科で設定した手だて	I 発達の段階に応じ、根拠を的確に示して思考の過程や結果を表現する能力を育成するための指導の工夫	○「スピーチによって、友達に読んでもらいたい本の魅力を紹介する」という単元のねらいを明確にし、そのために毎時間に学習するねらいを明確にするとともに、児童にも毎時間ねらいを示す。
	II 具体的な指導内容・方法等の提示	○なぜその本がお薦めなのか、根拠を発表メモに書かせて発表させる。 ○友達が推薦する本について、質問をし合ったり、感想を述べ合ったりする活動を取り入れる。
手共各だ通教での科	① 小・中・高の系統的な指導	○思考の過程や結果を根拠を的確に示して表出する学習活動を系統的に行う。
	② 興味・関心の喚起	○自分が選んだお薦めの本を他の人に紹介するという活動を設定し、相手意識や目的意識を高め、活動への興味・関心を高める。

③ 言語活動の充実	○他の人に、推薦する本のよさを伝えるという相手意識と目的意識を明確にする。
④ 実生活とのつながりの明確化	○効果的な発表をするために発表メモを作るなどの工夫をする力を身に付ける。
⑤ 学習習慣の確立 (主体的な学びの促進)	○表現の仕方を工夫して発表する習慣を身に付けさせる。
⑥ 評価の工夫	○構成や表現の工夫を記録した発表メモなどを活用して継続的に評価する。

4 指導計画（5時間扱い）

時	学習のねらい	学習活動	研究主題に迫るための手だて	評価規準 (評価方法)
1	・「書評合戦」への関心を高めるとともに、学校図書館を活用して薦める本を選ぶ。	○本を紹介し合う活動「書評合戦」について理解する。 ○「書評合戦」の目的を確認する。 ○学校図書館を活用し、薦める本を選ぶ。	【共通②興味・関心】 自分が選んだ薦める本を友達に紹介するという活動を設定する。 【共通③言語活動】 友達に推薦する本のよさを伝えるという相手意識と目的意識を明確にした学習を行う。	アー① (記述分析) イー① (記述分析)
2	・伝えたい事柄を抽出する。	○聞き手を引き付ける本の魅力とはどのような点に表れるか考える。 ○自分が推薦したい本のよさを考え、聞き手を引き付けるために伝えたい事柄を書き出す。	【教科Ⅱ】 本を薦める根拠をまとめさせる。 【共通⑥評価】 構成や表現の工夫を記録した発表メモなどを活用して継続的に評価する。	イー①、② (行動観察) (記述分析)
3	・効果的な発表の構成を考える。	○箇条書きでまとめた伝えたい本の魅力を整理する。 ○発表の流れ(構成)を考える。 ○聞き手を引き付ける展開や表現の工夫を考え、発表メモを作る。	【教科Ⅱ】 友達が推薦する本について、質問をし合ったり、感想を述べ合ったりする活動を取り入れる。 【共通④実生活】 効果的な発表をするために発表メモを作らせる。	アー② (行動観察) イー② (記述分析) ウー①、② (記述分析)
4 (展開例)	・構成や表現の仕方を工夫して推薦する本を紹介する。 ・発表を聞いて一番読みたいと思った本を選ぶ。	○グループ内で「書評合戦」を行う。 ○グループの発表を聞いて、一番読みたくなった本を多数決で選ぶ。	【教科Ⅰ】 「友達にスピーチによってお気に入りの本の魅力を紹介する」という単元のねらいを明確にし、児童に示す。 【教科Ⅱ】 友達が推薦する本について、質問をし合ったり、感想を述べ合ったりする活動を取り入れる。 【共通⑤学習習慣】 表現の仕方を工夫して発表させる。	アー③ (記述分析) イー③、④ (記述分析)


5	<ul style="list-style-type: none"> 構成や表現の仕方を工夫して推薦する本を紹介する。 発表を聞いて、一番読みたいと思った本を選ぶ。 本を紹介し合うよさを感じ、読書に対する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで選ばれた本をクラス全体で紹介し合う決勝戦を行う。 学級全体で一番読みたい本を決める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅰ】 「友達にスピーチによってお気に入りの本の魅力を紹介する」という単元のねらいを明確にし、児童に示す。</p> <p>【教科Ⅱ】 友達が推薦する本について、質問をし合ったり、感想を述べ合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>【共通⑤学習習慣】 表現の仕方を工夫して発表させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 書評合戦について振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅰ】 「友達にスピーチによってお気に入りの本の魅力を紹介する」という単元のねらいについて振り返らせる。</p> </div>	<p>アー③、④ (記述分析)</p> <p>イー③、④ (記述分析)</p>
---	--	--	---




5 展開例 第4時

(1) ねらい

- 推薦した本のよさが伝わるように、推薦した理由やエピソードなどの事例を挙げるなど、構成や表現の仕方を工夫して推薦する本を紹介することができる。
- 発表を聞いて、友達が推薦する本の特徴やよさ、推薦する理由など本の魅力を理解し、一番読みたいと思った本を選ぶことができる。

(2) 展開

	学習活動 ・予想される児童の反応	○留意点 ◆資料 【評価規準】(評価方法) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">研究主題に迫るための手だて</div>
導 入	<p>1 「書評合戦」のルールや発表順などを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表の流れや時間を確認する。 よりよい紹介をした人を選ぶのではなく、発表を聞いて一番魅力を感じた本、読みたいと思った本に投票することを確認する。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅰ】 「友達にスピーチによってお気に入りの本の魅力を紹介する」という単元のねらいを明確にし、児童に示す。</p> </div>
展 開	<p>2 グループで書評合戦をする。</p> <p>①発表（3分）</p> <p>②ディスカッション（2～3分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> タイマーを使い、発表時間は守らせる。 発表時間が余った場合、補足するよう声を掛ける。 発表で分からなかった点や詳しく知りたいことを質問するよう促す。 全員の発表が終わるまで繰り返す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅱ】 友達が推薦する本について、質問をし合ったり、感想を述べ合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>【共通⑤学習習慣】 表現の仕方を工夫して発表させる。</p> </div>

<p>3 どの本に投票するかを考え、その理由や興味をもった点をワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感動的な話だから、この本を読みたいな。 ・最後がどうなるのか、とても気になるから、この本を読みたい。 <p>4 投票を行い、グループの一番読みたい本を決める。</p> <p>5 グループで投票した理由などを話し合い、それぞれの本の魅力を交流する。</p> <p>6 話し手・聞き手としての自分について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表メモのとおり、聞き手を見て発表できた。 ・詳しく知りたいことを質問した。 	 <p>薦める本を指し示しながら紹介する様子</p> <p>【アー③、イー③】（ワークシートの記述分析）</p>  <p>記述によって推薦する理由を明確にする</p> <p>○机に全ての本を置き、選んだ本を一斉に指差して投票をする。 ○グループで選ばれた一番読みたい本を確認する。</p>  <p>一番読みたい本を一斉に指差す様子</p> <p>【イー④】（ワークシートの記述分析）</p> <p>○選ばれた本だけでなく、選ばれなかった本も含めて、全ての本について聞き手として感じたこと（肯定的な内容に限る）を交流させる。</p>
<p>まとめ</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 次時の予告を聞く。</p>	<p>○時間があれば、意見交換を通して気付いたことを、数名の児童に発表させる。</p> <p>○グループの代表による決勝戦を行うことを確認する。</p>

国語2 中学校 「根拠について考えよう」 第1学年

【本単元の概要】

根拠を明確にしながらかくことができるようになることを学習の目的に設定し、「読むこと」において二つの説明的な文章から根拠の種類や示し方を学び、それを活用して自分の書いた文章を根拠の示し方に焦点を当てて推敲する。

【系統表との主な関連】

項目2「表現の根拠となる情報を的確に読み取ったり聞き取ったりする力」を身に付けることを主として学習を展開している。身に付けた力を基に、思考の過程や結果を的確に根拠を示して書く活動を取り入れている。

1 単元の目標

- (1) 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見、文章全体と部分との関係や例示などを的確に読み取る。
- (2) 二つの文章における筆者の主張の根拠を分類・比較し、その妥当性について自分の考えをもつ。
- (3) 自分の考えを、根拠を明確にして書く。

2 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての知識・理解・技能
①文末表現や接続する語句などに注目して内容を読み取ろうとしている。 ②筆者の文章中の根拠の用い方について、共感や批判をしながら自分の考えをもとうとしている。 ③根拠を明らかにして200字の意見文を書こうとしている。	①体験したことや調査結果など、根拠を明らかにして意見文を書いている。 ②書いた意見文を読み返したり、交流したりして、適切な根拠を用いた意見文を書いている。	①筆者の問いと答え、その根拠を整理してまとめている。 ②二つの文章に用いられている根拠を分類し、その理由を述べている。 ③根拠による文章の説得力の有無や用いた根拠の効果について、自分の考えを述べている。	①接続する語句を囲み、段落の役割や段落相互の関係の理解につなげている。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内容
国語科で設定した手だて	I 発達の段階に応じ、根拠を的確に示して思考の過程や結果を表現する能力を育成するための指導の工夫	○文末表現や接続する語句に注目させ、問いや答え、その根拠を的確に読み取らせる。 ○読み取った内容を整理するためにワークシートを作成し、活用する。 ○二つの作品を同じ手順で読解し、情報を的確に収集する力を確実に身に付けさせる。
	II 具体的な指導内容・方法等の提示	○学習グループでの意見交換を行い、目的や相手などによって根拠の妥当性は変わってくることを理解させる。 ○根拠をよりよいものにするために書いた意見文を読み合い、推敲する活動を取り入れる。
各教科共通の手だて	① 小・中・高の系統的な指導	○思考の過程や結果を根拠を的確に示して表出する学習活動を系統的に行う。
	② 興味・関心の喚起	○二つの作品を関連付けて読む活動を設定し、生徒の目的意識を明確にする。
	③ 言語活動の充実	○グループで根拠の分類・比較などの活動を行い、根拠の用い方についての考えを発表する。
	④ 実生活とのつながりの明確化	○筆者の根拠の用い方を基に、自身の表現にも活用できるようにする。
	⑤ 学習習慣の確立（主体的な学びの促進）	○他の説明的な文章の読解においても、問いと答え、その根拠を読みとることができるようにする。
	⑥ 評価の工夫	○初めの文章読解における評価を次の文章読解に生かし、情報を的確に収集する力の確実な定着を図る。

指導計画（7時間扱い）


時	学習のねらい	学習活動 研究主題に迫るための手だて	評価規準 (評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標と学習活動の流れを確認し、学習の見通しをもつことができる。 根拠を挙げて、200字の意見文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標と学習活動の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 「中学生に携帯電話は必要か」というテーマで、200字の意見文を書く。 書いた作品をグループで読み合い、説得力があると思うものを一つ選ぶ。 	アー③ (行動観察) イー① (作品分析)
2	<ul style="list-style-type: none"> 「笑顔という魔法」を読み、筆者の問いと答え、その根拠を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「笑顔という魔法」を通読する。 筆者の問いと答え、その根拠を探し、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【教科Ⅰ】 <ul style="list-style-type: none"> 文末表現や接続する語句に着目させる。 読み取った内容をワークシートに整理させる。 </div>	アー① (行動観察) ウー① (行動観察) (記述分析)
3	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の頭で考える？」を読み、前半部分の筆者の問いと、その答えを読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習した説明的文章の読解の方法を確認する。 「自分の頭で考える？」を通読する。 前半部分の筆者の問いと答えを探し、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【教科Ⅰ】 <ul style="list-style-type: none"> 文末表現や接続する語句に着目させる。 読み取った内容をワークシートに整理させる。 </div>	ウー① (行動観察) (記述分析) エー① (記述分析)
4	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の頭で考える？」の前半部分の筆者の答えの根拠を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前半部分の筆者の答えの根拠を探し、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【教科Ⅰ】 <ul style="list-style-type: none"> 文末表現や接続する語句に着目させる。 読み取った内容をワークシートに整理させる。 二つの作品を同じ手順で読ませる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 根拠と、そこから筆者が主張していることのつながりを確認する。 	ウー① (行動観察) (記述分析) エー① (記述分析)
5	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の頭で考える？」の後半部分の筆者の問いと答え、その根拠を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 後半部分の筆者の問いと答えを探し、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【教科Ⅰ】 <ul style="list-style-type: none"> 文末表現や接続する語句に着目させる。 読み取った内容をワークシートに整理させる。 二つの作品を同じ手順で読ませる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 根拠と、そこから筆者が主張していることのつながりを確認する。 	ウー① (行動観察) (記述分析) エー① (記述分析)
6 (展開例)	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を分類・比較し、各文章の根拠の使い方について共感や批判をしたり、疑問をもったりすることで、自分の考えを広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの文章から読み取った根拠を分類する。 根拠の使い方についての自分の考えを発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【教科Ⅰ】 <ul style="list-style-type: none"> 読み取った内容をワークシートに整理させる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【教科Ⅱ】 <ul style="list-style-type: none"> 目的や相手による用いる根拠の違いを理解させる。 </div>	アー② (行動観察) ウー②、③ (記述分析)
7	<ul style="list-style-type: none"> 自分が書いた意見文の根拠を推敲し、適切な根拠を用いた文章に書き換えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1時に書いた意見文を読み直し、根拠を見直す。 推敲した意見文をグループで読み合い、根拠の使い方について意見交換する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【教科Ⅰ】 <ul style="list-style-type: none"> 文末表現や接続する語句に着目させる。 読み取った内容をワークシートに整理させる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 意見交換した内容を踏まえて意見文を推敲し、書き上げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【教科Ⅱ】 <ul style="list-style-type: none"> 書いた意見文の読み合いによって推敲させる。 </div>	アー③ (作品分析) イー①、② (作品分析)


5 展開例 第6時

(1) ねらい

- ・筆者の文章中の根拠の使い方について、共感や批判をしながら自分の考えをもつことができる。
- ・根拠を分類・比較し、各文章の根拠の使い方について共感や批判をすることで、自分の考えを広げることができる。

(2) 展開

学習活動		○留意点 【評価規準】（評価方法） 研究主題に迫るための手だて										
導 入	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の目標と学習の流れについて確認する。</p> <p>3 「笑顔という魔法」と「自分の頭で考える？」に使われた根拠をペアで確認する。</p> <p>4 用いられた根拠を全体で確認する。</p>	<p>○筆者の主張を支えるのは根拠(具体例)であることを確認する。</p> <p>○掲示物を確認し、次の点について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの文章で挙げられている根拠を分類して、どのような内容が根拠になるか確認すること。 ・分類した根拠を比較して、妥当性や、各文章での使い方について考えること。 <p>○座席の隣同士で簡潔に用いられた根拠を確認する。 (例) ことわざ、実験、マッチ棒パズル など</p> <p>○根拠の内容を短冊にしておき、生徒が発言したら、黒板に提示していく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔という魔法」の根拠（赤い短冊） 漫画を読む実験 ラジオ体操 単語を分類する実験 ことわざ ・「自分の頭で考える？」の根拠（青い短冊） マッチ棒パズル 筆算と暗算の計算 言葉の学び方 言葉（「りんご」、「春一番」） 概念（「電流」） 動物園 </div>										
展 開	<p>5 二つの作品で用いられた根拠がどのような種類のものかを考え、まとめごとに名前を付ける。</p>	<p>○教師が黒板に根拠を分類して貼り、どんな観点で分類したかが分かるよう、まとめごとに名前を付けさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅰ】 読み取った内容を整理するためにワークシートを作成し、活用させる。</p> </div> <p>○机間指導をしながら、生徒の分類の様子を把握する。</p> <p>○4、5人の生徒に発表させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><分類の例></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">①自分の経験（体験や見聞）</td> <td style="width: 50%;">②自分の読書経験</td> </tr> <tr> <td>③他の人の気持ちや考え</td> <td>④他の人の経験</td> </tr> <tr> <td>⑤文献や他人の言葉を利用したもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥ルールや習慣として定着しているもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦実験・調査の結果</td> <td></td> </tr> </table> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>短冊を使うことで生徒の理解を助け、 授業も効率的になる</p> </div>	①自分の経験（体験や見聞）	②自分の読書経験	③他の人の気持ちや考え	④他の人の経験	⑤文献や他人の言葉を利用したもの		⑥ルールや習慣として定着しているもの		⑦実験・調査の結果	
①自分の経験（体験や見聞）	②自分の読書経験											
③他の人の気持ちや考え	④他の人の経験											
⑤文献や他人の言葉を利用したもの												
⑥ルールや習慣として定着しているもの												
⑦実験・調査の結果												

<p>6 まとまりに付けた名前を全体で確認する。</p> <p>7 分類した根拠を基に、根拠の使い方について自分の考えを書く。</p> <p>8 根拠の使い方についての自分の考えを、四人グループで確認し、根拠をもって自分の考えを書いている生徒を一人選ぶ。</p> <p>9 根拠の使い方について、グループの代表生徒の発表を通して全体で確認する。</p>	<p>○生徒の発表に補足して、適切な分類の仕方についてのまとめを行う。 【ウー②】（ワークシートの記述分析）</p> <p>○自分の考えだけでなく、理由も必ず書くようにする。 （視点の例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んだ作品で用いられた根拠は適切だったか。 ・読んだ作品の中で、どの根拠に説得力があったか。 ・自分が作文を書いたり、発表をしたりするときは、どんな根拠を用いるか。 など <p>【アー②】（行動観察） 【ウー③】（ワークシートの記述分析）</p> <p>○他の人の考えと自分の考えを比べて、共通点や相違点を考えさせる。</p> <div data-bbox="657 730 1433 837" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅱ】 学習グループでの意見交換を行い、目的や相手などによって根拠の妥当性は変わってくることを理解させる。</p> </div> <div data-bbox="671 904 1129 1245" style="text-align: center;">  <p>四人グループで自分の考えを交流する</p> </div> <p>○グループの中で、生徒を選ぶ基準を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと根拠が明確であること。 <p>○他の人の考えと自分の考えを比べて、共通点や相違点を考えさせる。</p> <p>○4、5人の生徒に発表させる。</p> <p>○読む相手に分かりやすく、主張の内容にふさわしい根拠を用いることが、文章の説得力を高めることに気付かせる。</p> <p>○一般的には、客観的な事実を根拠として用いると説得力が高まることを押さえておく。</p>
<p>ま と め</p> <p>10 本時の学習を振り返る。</p> <p>11 次時の予告を聞く。</p>	<p>○時間があれば、意見交換を通して気付いたことを、数人の生徒に発表させる。</p> <p>○説得力のある表現（文章や発表）には、根拠が適切に用いられていることを確認し、次時の学習に生かすよう促す。</p>

国語3 高等学校 国語総合「聞くことを通して得た情報を整理、活用する」第1学年

【本単元の概要】

映像教材を用いて話の中に含まれる多くの情報の中からの的確に情報を聞き取り、要点を整理する「理解」についての学習と聞き取った話者の主張に対して、根拠を明確にしながら話す「表現」について一連した学習過程に基づいて学習する。

【系統表との主な関連】

「理解」と「表現」それぞれの学習について、「論理的な思考力・表現力」を身に付けるための一連した学習過程と四つの基礎的・汎用的な能力を関連付けている。

1 単元の目標

- (1) 話の中から必要なことを聞こうとする態度や、自らの考えを相手が的確に理解できるよう工夫して話そうとする態度を養う。
- (2) 話の中から、自分の必要なことを的確に聞き取る。
- (3) 話題について自分の考えをもち、工夫して意見を述べる。

2 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 知識・理解
①話の中に含まれる多くの情報や事柄の中から、話し手の主張や根拠など必要なことを的確に聞き取るようとしている。 ②話題について、知識や体験、話から得た情報を根拠に用いようとしている。 ③論理構成を工夫して意見を述べようとしている。	①話の中に含まれる多くの情報や事柄の中から、話し手の主張や根拠など必要なことを的確に聞き取っている。 ②話題について、知識や体験、話から得た情報を根拠に用いている。 ③論理構成を工夫して意見を述べている。	①話し手の論理の展開を捉えて内容を理解している。 ②話の中での語句の意味を的確に理解している。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内容
国語科で設定した手だて	I 発達に応じ、根拠を的確に示して思考の過程や結果を表現する能力を育成するための指導の工夫	○題名からキーワードとなる言葉を想像させたり、導入で筆者の主張の根拠となる話題に着目させたりする。 ○映像教材を活用し、話の展開の変化（接続詞の使い方）に気を付けて聞き取らせる。 ○筆者の主張や根拠を聞き取り、図示して整理することで、論理の構成をつかませる。
	II 具体的な指導内容・方法等の提示	○筆者の主張と自分の考えを比較させるために、メモを活用させる。 ○自分の考えを整理して、論理の構成を工夫して意見を述べるなど効果的に表現させる。
各教科共通の手だて	① 小・中・高の系統的な指導	○思考の過程や結果を、根拠を示して表出する学習活動を系統的に行う。
	② 興味・関心の喚起	○「話すこと・聞くこと」の言語活動の中で、生徒にとって身近な話題を提供することにより、知識と体験を想起させる。
	③ 言語活動の充実	○映像教材の活用、論理の構成をメモで表すなどの学習活動を工夫する。
	④ 実生活とのつながりの明確化	○聞いた内容を相手の主張を考えてメモする力を付けさせる。
	⑤ 学習習慣の確立（主体的な学びの促進）	○大事なことなどや聞き取ったことなどをメモする習慣を身に付けさせる。
	⑥ 評価の工夫	○思考の過程を記録したメモなどを活用して、継続的に評価する。

4 指導計画（2時間扱い）

時	学習のねらい	学習活動	研究主題に迫るための手だて	評価規準 (評価方法)
1 (展開例)	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞き、その内容から話し手の主張や主張の根拠を聞き取る。 自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標と学習活動の流れを確認して学習の見通しをもつ。 論評番組を10分間視聴し、論理の展開が把握できるような聞き取りメモを作成する。 放送原稿を読み、自分が記入した聞き取りメモの内容を確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 題名からキーワードとなる言葉を想像させたり、導入で筆者の主張の根拠となる話題に着目させたりする。 映像教材を活用し、話の展開の変化（接続詞の使い方）に気を付けて、聞き取らせる。 <p>【共通①系統性】</p> <p>思考の過程や結果を、根拠を的確に示して表出する学習活動を系統的に行う。</p> <p>【共通②興味・関心】</p> <p>「話すこと・聞くこと」の言語活動の中で、生徒にとって身近な話題を提供することにより、知識と体験を想起させる。</p> <p>【共通③言語活動】</p> <p>映像教材の活用、論理の構成をメモで表すなどの学習活動を工夫する。</p> <p>【共通④美生活】</p> <p>聞いた内容を相手の主張を考えてメモする力を付ける。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ア－①（行動観察） イ－①（行動観察） ウ－①（記述分析）
2 (展開例)	<ul style="list-style-type: none"> 相手に自分の考えが適切に伝わるように話すために、根拠を明確にし、論理の展開を工夫する。 メモを見ながら発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの適切な根拠を話の中の情報や自分自身の知識・体験から決める。 話題に対する自分の考えを整理し、発表メモを作成する。 話題に対する自分の考えを発表し合う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張と自分の考えを比較させるために、メモを活用させる。 自分の考えを整理するために、意見を述べる順序を決めさせる。 <p>【共通①系統性】</p> <p>思考の過程や結果を、根拠を的確に示して表出する学習活動を系統的に行う。</p> <p>【共通⑤学習習慣】</p> <p>大事なことなど聞き取ったことをメモする習慣を身に付けさせる。</p> <p>【共通⑥評価】</p> <p>思考の過程を記録したメモなどを活用して継続的に評価する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ア－②、③（行動観察） イ－②、③（行動観察） ウ－②（記述分析）

5 展開例 第1時

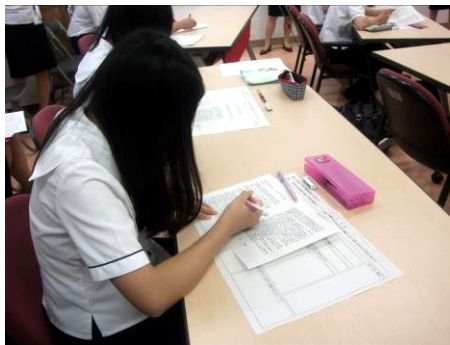
(1) ねらい

- 目的や場に応じて、必要なことを的確に聞き取ろうとしている。
- 話の中に含まれる多くの情報の中から、必要なことを的確に聞き取ることができる。

(2) 展開

	学習活動	○留意点 【評価規準】(評価方法)
導入	1 単元の目標と学習活動の流れを確認し、学習の見通しをもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>研究主題に迫るための手だて</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習のねらいである、聞き取りによって情報を収集し、収集した情報を基に内容の要約をすることを理解させる。 ○生徒の様子に応じて、メモの取り方の工夫を確認する。

展 開	<p>2 論評番組を 10 分間視聴しながら、聞き取りメモをとらせる。</p> <p>3 活字化された番組の放送原稿を読み、自分が記入した聞き取りメモの内容を確認する。</p>	<p>○聞き取りメモ（ワークシート）を配布し、視聴時のメモ欄に記入することを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【教科 I】</p> <p>①題名からキーワードとなる言葉を想像させたり、導入で筆者の主張の根拠となる話題に着目させたりする。</p> <p>②映像教材を活用し、話の展開の変化（接続詞の使い方）に気を付けて、聞き取らせる。</p> <p>③話の展開、題名と筆者の主張（終末）を図示することで、的確に筆者の主張をつかませる。</p> </div> <p>【ア－①】（行動観察・ワークシートの記述分析）</p> <p>【イ－①、ウ－①】（行動観察）</p> <p>○要点に線や記号を記入しながら、配布された放送原稿を読むように指示する。</p> <p>○視聴時に記入したメモに修正することや付け加えることがある場合は、ワークシートの聞き取りメモ欄にペンを使って記入させる。また、記入した聞き取りメモに大幅な不足や修正がある場合は、ワークシートの読解時のメモ欄に記入させる。</p> <p>○話し手の意図に即したメモが取れていない生徒が多い場合は学級全体で文章構成の型を確認する。</p>
	<p>4 聞き取ったメモを基に、内容を要約する。</p>	<p>○自分のメモを基に自分の言葉でまとめるよう指示する。</p> <p>○話し手の意図を踏まえ、主要な部分を押さえて要約するよう指示する。</p> <p>○机間指導時に生徒の記入内容を確認する。 付加的な事項を書き出している生徒がいた場合にはクラス全体で確認する。</p>
ま と め	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>6 次時の予告を聞く。</p>	<p>○聞き取りによって情報を収集し、収集した情報を基にまとめることの大切さを確認する。</p>




放送原稿と比べて
メモに不足がないかを確認する様子

6 展開例 第2時

(1) ねらい

- ・話題について、知識や体験を根拠として論理の展開を工夫して意見を述べることができる。
- ・話し手の論理の展開を捉え、話の中での語句の意味を的確に理解することができる。

(2) 展開

	学習活動	○留意点 【評価規準】（評価方法） 研究主題に迫るための手だて
導 入	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習内容とめあてについて確認する。	○何を話題にした話を聞いたか確認する。 ○前時で収集した情報を基に、話題の中で注目する内容、それに対する自分の考え、考えの根拠となる知識や体験について、まとめて互いに発表し合うことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【共通②興味・関心】 生徒にとって身近な話題を提供し、知識と体験を想起しやすくする。 </div>
展 開	3 聞き取った内容や自分自身の体験・知識から、自分の考えの適切な根拠を考える。 4 注目した内容に対する自分の考えを整理し、根拠を明確にして発表メモを作成する。 5 注目した内容に対する自分の考えをグループで発表し合う。 6 代表生徒が発表し、全体で内容を確認する。	○他の人が納得できる妥当な根拠を、様々な事柄と関連させて考えるようにする。 ○話題の中で注目する内容、それに対する自分の考え、考えの根拠となる知識や体験について、1分程度の内容でまとめるよう指示する。 ○原稿の読み上げにならないよう、発表のためのメモ作りであることを強調する。 ○メモした内容に話す順序に応じた番号を付けさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【教科Ⅱ】 ・筆者の主張と自分の考えを比較するために、メモを活用させる。 ・自分の考えを整理するために、意見を述べる順序を決める。 </div> 【イー②、③、ウー②】（記述分析） ○互いの考えを発表し、確認させる。 ○注目した内容や自分の考え、用いた根拠などを、他の生徒の発表から比べさせる。 【アー②、③】（行動観察、記述分析） <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>四人グループで自分の考えを発表し合う様子</p> </div> ○グループ内で発表の代表者を選出する際の基準は、最も話の筋道が明確であり、適切な具体例が示されていることであることを確認する。 ○発表の際、発表者は全体の方を向き、聞く側は発表者の方を向くようにさせる。
ま と め	7 本単元の学習を振り返り、内容を確認する。	○情報を収集して自分の考えを表現する意義を確認させる。 ○日頃から小学校・中学校で学習し、身に付けた力を組み合わせて課題を解決するための方法を探るよう促す。

国語「思考の過程や結果を的確に根拠を示して表現するための基礎的・汎用的な能力に関する

		小学校		
育てたい能力	具体的内容	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
		基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
① 分析的・表現力	ア 目的及び内容の判断	・表現の目的を理解し、何について表現するのかなどの内容を判断することができる。	・表現の目的を理解し、事実について表現するの感想や意見を表現するのかなどの内容を判断することができる。	・表現の目的や内容を的確に理解し、求められている課題や条件を的確に判断することができる。
	イ 方法の判断	・相手に応じて適切な表現を選ぼうとすることができる。	・相手や目的に応じて適切な表現を選択することができる。	・事実と感想、意見などを区別するとともに、相手や目的、意図に応じて、まとめるか詳述するかを判断することができる。
② 表現の根拠となる情報を的確に読み取ったり聞き取ったりする力	ア 言葉の意味・用法やきまり等の理解と活用	・語のまとまり、送り仮名や活用する語句、主語と述語との関係などに気付くとともに、日常会話で使う語句の意味を理解し、必要に応じて使うことができる。	・語句の性質や役割の上での類別、指示語や接続語が果たす役割、相手に応じた言葉遣いなどについて理解し、日常の会話や文章で使うことができる。	・語句の変化や文の構成、話し言葉と書き言葉、敬語、比喩や反復などの表現の工夫、文脈における語句の意味、語句の構成や由来などを理解し、必要に応じて活用することができる。
	イ 情報の収集・整理	・話や文章、身近な出来事などから、表現しようとする内容に必要な事柄を集めることができる。	・話や文章、関心のあることなどから、相手や目的に応じて、説明したり課題を解決したりするために必要な事柄を調べて取捨選択することができる。	・相手や目的、意図に応じ、内容や方法を考えながら情報検索や取材をし、話や文章の構成や表現に役立つように情報を整理することができる。
	ウ 情報の分析・集約	・時間や事柄の順序、場面の様子や登場人物の行動の変化などを捉え、文章の中の大事な言葉や文を書き抜いたり、内容の大体をまとめたりすることができる。	・話のまとまりや段落、事実と意見、中心となる事柄と理由や具体例、人物や情景の描写などに着目し、中心となる語や文、要点などを捉えて引用や要約をすることができる。	・事実と感想や意見、登場人物の相互関係などを的確に捉え、筆者や話し手の意図や思考を想定しながら全体の構成を把握して、要旨をまとめることができる。
③ 知識や経験を適切に活用したり蓄積したりする力	ア 知識や経験のなと想起と活用	・話や文章の内容と自分の経験とを結び付けて、思いや考えをまとめたり想像を広げたりするとともに、身近なことや経験したことなどから話すことや書くことを決めることができる。	・経験したことや読書体験などを想起し、表現された登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを想像したり自分の考えを深めたりすることができる。	・目的や意図に応じ、適切な知識や情報、経験などを関係付けて話したり書いたりすることができる。
	イ 新たな知識や経験の蓄積	・楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読もうとし、大事なことを落とさないようにしながら興味をもって聞いたり、経験したことや想像したことなどを書いたりすることができる。	・目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読もうとし、関心のあることなどについて、話したり書いたりするために必要な事柄について調べ、重要な部分に印を付けたり要点をメモしたりすることができる。	・目的に応じて、複数の本や文章などを選び、比べて読むなどして、考えを広げたり深めたりしようとし、収集した知識や情報に関係付けたり事柄を整理したりして記録することができる。
④ 思考の過程や結果を的確に表現する力	ア 的確な根拠の選択と提示	・話したり書いたりする際に、自分の考えや伝えたいことに加え、理由や関連する事例を挙げることができる。	・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げて話したり書いたりすることができる。	・事実と感想や意見などを区別し、収集した知識や情報、引用、図表やグラフなどを感想や意見などの根拠として用いることができる。
	イ 論理の構成や表現の工夫	・自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、つながりのある話や文章にすることができる。	・相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て話したり、自分の考えが明確になるように、段落の役割や相互の関係などに注意して文章構成を工夫したりすることができる。	・目的や意図に応じ、事柄が明確に伝わるように構成を工夫しながら話したり、自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えて書いたりすることができる。
	ウ 話の振り返りや文章の推敲	・自分の話を振り返ったり、文章を読み返したりして、間違いなどに気付き、直すことができる。	・話や文章の間違いを正したり、より分かりやすい表現となるように補ったりするとともに、互いに発表し合ったりして考えの明確さなどについて意見を述べ合うことができる。	・話や文章の表現の的確さ、効果などについて確かめたり工夫したりするとともに、互いに発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。
参考となる指導例		言葉に注目して読もう	感謝の気持ちを伝える手紙を書こう 季節のよさを伝える新聞を書こう	友達に読んでもらいたい本を紹介しよう（書評合戦）

一連の学習過程

系統表」

中学校		高等学校	
第1学年及び第2学年	第3学年	第1学年	第2学年以上
応用Ⅰ	応用Ⅱ	発展Ⅰ	発展Ⅱ
<ul style="list-style-type: none"> 示された課題や条件から、表現する目的や内容を的確に判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や場面などから、表現する目的や内容を的確に判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や場面、意図などから、表現する目的や内容を的確に判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や話の展開などに速やかに応じて、表現する目的や内容を的確に判断することができる。
<ul style="list-style-type: none"> 相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かし、課題や条件に応じて適切な分量や表現の仕方などを選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面や相手などに応じて、必要な手順や表現の方法などをいくつか選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を達成するために必要な手順や表現の方法を適切に選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な表現となるように適切な手順や表現の方法を選択することができる。
<ul style="list-style-type: none"> 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、表現の技法、語句の辞書的な意味と文脈上の意味、抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語などについて理解し、必要に応じて使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口語の決まり等について習熟するとともに、慣用句・四字熟語などの語句の文脈における効果的な使い方や和語・漢語・外来語などの使い分けなどを理解し、適切に使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口語や文語のきまりや文法、様々な語句の意味・用法及び表記の仕方、類比や対比などを理解し、必要に応じて効果的に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文種や筆者による文体、修辞などの表現上の特色、文章特有の語句の用いられ方、構成の特色などを的確に理解し、必要に応じて表現に効果的に活用することができる。
<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図、課題などに応じ、大切な事柄をメモするなどして情報を収集し、真偽や適否を見極めながら整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話や文章、社会生活の中から多面的に情報を収集しながら自分の考えを深め、活用を見通して必要な情報を選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や場に応じた的確に聞き取ったり本や文章を幅広く読んだりして必要な情報を収集し、内容や表現の仕方について評価したり、話し手や書き手の意図を捉えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話や文章の構成や展開、人物や情景の描写、要旨や意図などを的確に捉え、論理性を評価するとともに表現を味わうことができる。
<ul style="list-style-type: none"> 中心的な部分と付加的な部分、事実と意見、文章全体と部分や例示、場面の展開、登場人物の描写や言動などを把握し、それぞれの効果や意味、全体の要旨などを簡潔にまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話や文章の構成や展開、表現上の工夫などにも注意して内容を捉え、人間、社会、自然などについて考えを深め、自分の意見を表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章や話の内容を目的や課題に応じて的確に読み取ったり聞き取ったりし、必要に応じて要約や詳述をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や課題に応じて収集した様々な情報を活用し、自分の考えを深めたり効果的に表現したりすることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 話や文章に表れているものの見方や考え方について、適切な知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に関わる話題や題材などについて、自分の経験や知識を整理して考えをまとめるとともに、新たな資料や視点を加えて話したり文章を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の文章について、書き手の意図を捉え、自分の知識や経験などに照らし合わせて共感や疑問を感じたり、思索したりして文章を味わって読み、理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知識や経験に照らし、話題や題材に応じて収集した情報を分析したり、文章を批評したりすることを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 話や文章、経験などから適切な情報を得て、自分のものの見方や考え方を広げようとして、文章の構成や展開、表現上の工夫などを捉えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容や表現の仕方を評価すること、目的に応じて本や文章などを読むこと、様々な経験を重ねることなどを通して、知識を広げたり考えを深めたり、人間、社会、自然などについて考えたりして、自分の意見をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話や文章における優れた表現に接して、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとし、話や文章に表現された人物、情景、心情などを味わい、自分の考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わおうとし、文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ちを表現する際に、真偽や適否などを見極めて根拠を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話や文章を説得力のあるものにするために、自分の経験や知識などの根拠に加え、資料を適切に引用するなど、目的や意図に応じて効果的な根拠を的確に選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手や読み手の疑問や反論を予想し、効果的な表現となるように論拠を選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合ったり、自分の考えを効果的に表現するために的確な論拠を選択したりすることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 全体と部分や事実と意見、中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えたり、自分の立場や伝えたい事柄を明確にしたりして、話したり書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じた効果的な構成や論理の展開を工夫するとともに、語句や文を効果的に使ったり資料などを活用したりして、説得力のある話や文章にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図、条件に応じて、要約するか詳述するかなどを判断し、論理の構成や展開を工夫して表現に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合ったり、主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成などを工夫して書いたりすることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 文の使い方や叙述の仕方、段落相互の関係などに注意して、分かりやすい文章にするとともに、話や文章における根拠の明確さや構成などについて交流し、優れた表現や助言などを表現に役立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を読み返し、文章全体を整えるとともに、書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話や文章の内容、表現の仕方などについて自己評価や相互評価を行ったり、優れた表現に接してその条件を考えたりして、自分の表現に役立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話や文章における様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合ったりして批評したりして、自分の表現や推敲に役立てることができる。
<p>根拠について考えよう 友達の魅力を紹介しよう 表現に注目して朗読しよう</p>	<p>いにしえの心と語らう</p>	<p>聞くことを通して得た情報を整理、活用する</p>	<p>叙述を基に人物像について話し合おう</p>